

# 令和5年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立新宿小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・資料の読み方を丁寧に指導することを継続したことで、地図やグラフ、年表などの資料から必要な情報を読み取ることができるようになってきた。
- ・地図記号に触れる機会を増やしたことで、地図記号の理解が定着してきた。
- ・比較・関連付けさせる活動を行うことで、問題に対する自分の考えをもつことができるようになってきた。

### (2) 課題

- ・四方位や日本の国土や産業、自然環境などについての知識を定着させる。
- ・資料から読み取った情報を比較したり関連付けたりして、そこからわかることを考え、自分の言葉で表現する力を身に付けさせていく。
- ・人々の工夫や努力について、すすんで考えようとする意欲を高めていく。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

### (1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	目標値との比較：▼ 区平均との比較：▼		
第5学年	目標値との比較：△ 前年度との比較（達成率）：△	目標値との比較：△ 区平均との比較：▼	
第6学年	目標値との比較：▼ 前年度との比較（達成率）：▼	目標値との比較：△ 前年度との比較（達成率）：△	目標値との比較：△ 区平均との比較：△

### ① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第4学年 ・目標値を下回った。 ・地図記号はおおむね理解できている。 ・四方位やコンビニエンスストアの様子、安全な暮らしを守るための仕組み、昔と今の道具の役割や工夫の理解に課題がある。	第4学年 ・目標値を上回った。 ・資料をもとに人々の工夫や努力について表現することはおおむねできている。 ・消費者の願いをふまえた販売の工夫について、資料をもとに判断することに課題がある。	第4学年 ・目標値を上回った。 ・観点を明確にして資料を読み取り、それを表現しようとすることに課題がある。

### ② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第5学年 ・目標値を上回った。 ・八方位や地形の様子など地図を読み取る力は定着している。 ・水道水の使用量について資料を読み取ることやダム役割について理解することに課題がある。	第5学年 ・目標値を上回った。 ・複数の資料を関連付け、人々の工夫や努力について判断することはおおむねできている。 ・都道府県の人口と地形の様子を関連付け、考えたことを自分の言葉で表現することに課題がある。	第5学年 ・目標値を上回った。 ・都道府県の様子について、複数の資料を読み取り、わかったことを表現しようとすることに課題がある。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第6学年 ・目標値を下回った。 ・主な工業地帯・工業地域についておおむね理解している。 ・大陸の名称や様々な国の国旗、日本の領土の範囲について、様々なメディアの特徴についての理解に課題がある。	第6学年 ・目標値を下回った。 ・関連工場の役割やさいばい漁業の利点について資料をもとに表現したり、情報活用の現状や情報発信・受信の注意点、災害の発生の仕方について考えたりすることに課題がある。	第6学年 ・目標値を下回った。 ・農業が抱える課題を解決する取組や地産地消の取組、自然災害発生の仕組みや関連工場の役割などについて資料をもとに考え表現しようとすることに課題がある。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・教室にある四方位の表示を活用したり、地図を見た時に方位を確かめたりするなど、四方位を意識させる機会を増やす。 ・商店や昔の道具などについて、見学したり、実物に触れたりする活動を単元の中に設定する。それが不可能な場合は、ICTを活用して間接的に触れられるようにする。	・社会的事象を比較し、それぞれの特徴や共通点、相違点などを考え、まとめる活動を取り入れる。 ・必要に応じて図や表、付箋などの思考ツールを活用したり、児童の思考を促す発問を工夫したりして、自分の考えを言葉に表現できるようにする。	・単元の中に見学や体験などの活動を取り入れる。それが不可能な場合は、ICTを活用して可能な範囲で見学・体験ができるようにする。

#### (2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・学習の中でおさえるべき用語について、その意味や背景なども合わせて理解させる。また、おさえるべき用語を使って学習のまとめを自分で書く活動も取り入れる。 ・大陸、海洋の名称や、日本とつながりの深い国々の位置や国旗について、授業外でも触れる機会をつくる。 ・ICTを活用してグラフを重ねて資料を比較しやすくしたり、黒板に提示して常に見ることができるようしたりするなど、必要に応じてデジタルとアナログを使い分ける。	・必要に応じて図や表、付箋などの思考ツールを活用し、自分の考えを整理できるようにする。 ・社会的事象を関連付けたり総合したりして、社会的事象の意味や相互の関連などについて考え、まとめる活動を取り入れる。 ・学習したことを自分の生活にどのように生かすか、学習したことを受けて自分はこれからどうしていくかなど、児童の思考を促す発問を意図的に行う。	・ICTを活用したり課題提示の方法を工夫したりして、児童が意欲的に学習に取り組めるような導入を考える。 ・資料の精選や発問の工夫を行い、児童が見通しをもち、自分ごととして問題解決的な学習に臨めるようにする。 ・単元の中に見学や体験などの活動を取り入れる。それが不可能な場合は、ICTを活用して可能な範囲で見学・体験ができるようにする。